

NO. 1 事業名 中山間地域総合整備事業（国補）

箇所・地区名 かみくいしき 上九一色

平成26年度 公共事業事後評価調書

(区分) **国補**・県単

1. 事業説明シート(1)

事業名		中山間地域総合整備事業(国補)		事業箇所	南都留郡富士河口湖町・甲府市		地区名	上九一色		事業主体	山梨県				
(1)事業着手年度		H13年度		(2)事業期間		H13年度～H21年度		(3)完了後経過年数		5年		(4)総事業費		1,425百万円	
(5)事業着手時点の課題・背景								(8)事業位置図等							
<p>本地区は、旧上九一色村を事業区域としており、南部の富士ヶ嶺地区(現富士河口湖町)は県内でも有数の酪農地帯である。また、北部の古閑・梯地区(現甲府市)は兼業農家による稲作を主体とした営農地域である。</p> <p>しかし、農畜産物価格の低迷による生産意欲の減退、農家の高齢化、後継者不足等により、農業従事者が減少していたため、生産基盤の整備や防災施設の整備を進めるとともに、富士五湖の一部である精進湖や本栖湖の地域資源を活用した都市住民との交流による地域の活性化により地域の活力を取り戻す必要があった。</p> <p>これらの課題を解決し、地域の活性化を図っていくために農業生産基盤整備や農村環境基盤整備を総合的に整備できる本事業を実施した。</p>															
(6)事業着手時点で想定した整備目標・効果															
<p>(事前評価未実施)</p> <p>□主要目標</p> <ul style="list-style-type: none"> 中山間地域等の農村生活・生産機能の向上 <p>□副次目標</p> <ul style="list-style-type: none"> 集落間・小規模拠点施設へのアクセス向上 農業用排水能力の向上 <p>□副次効果</p> <p>農地の保全</p>															
(7)整備内容(目標達成の方法)															
<p>用排水路(4路線) L= 900m</p> <p>農道(6路線) L= 2,556m</p> <p>農業集落道(5路線) L= 1,398m</p> <p>集落排水(1路線) L= 149m</p> <p>用地整備(2箇所) A= 3ha</p> <p>活性化施設(1棟) A= 556㎡</p> <p>交流施設基盤 1箇所 A= 0.8ha</p> <p>市民農園等整備 1箇所 A= 0.3ha</p> <p>鳥獣害防止施設 4箇所 L= 1,237.6m</p>															

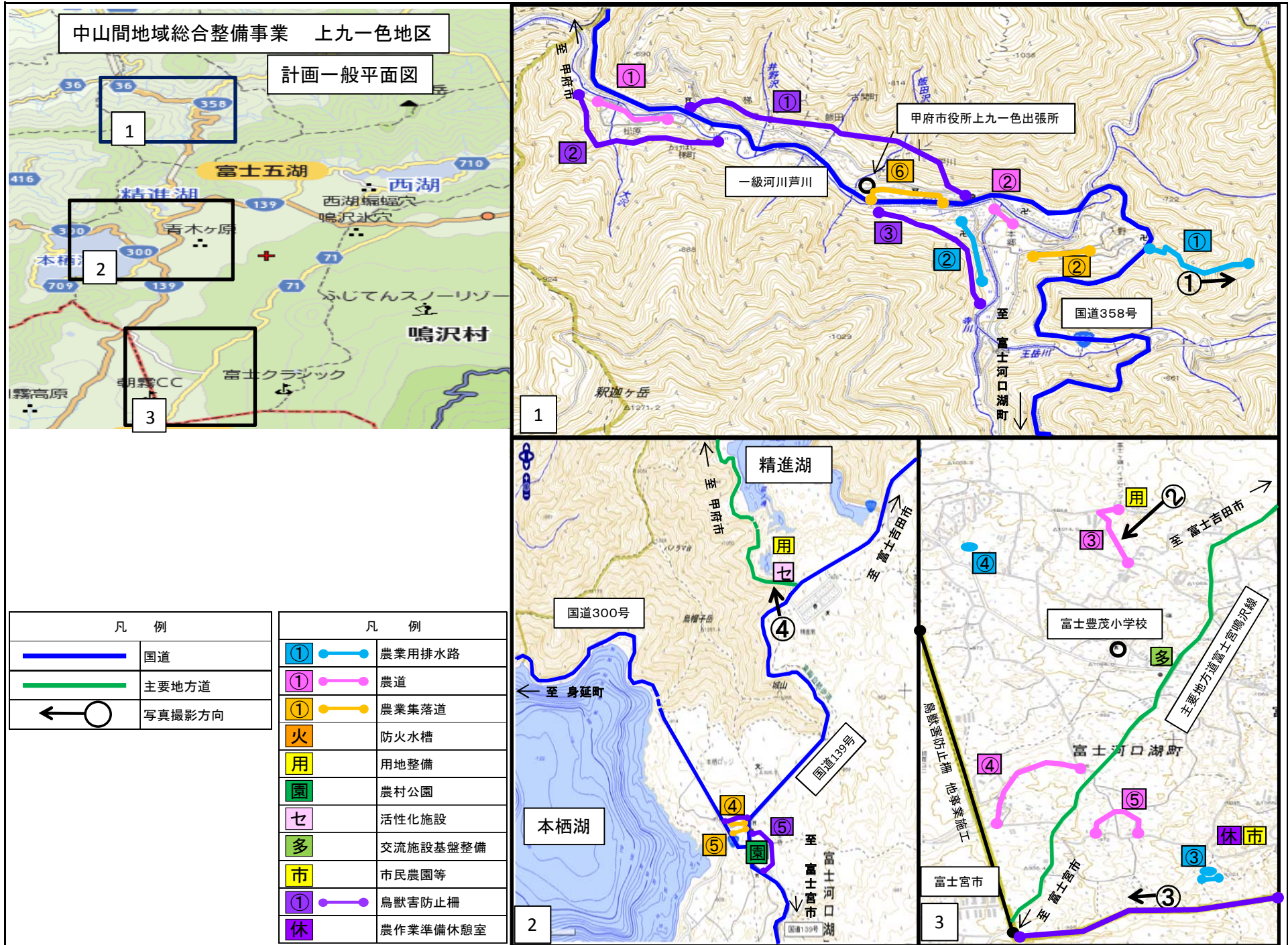
2. 評価シート(1)

<p>(1) 事業貢献度 〈 <input checked="" type="radio"/> 良 〉</p> <p>(理由) 農道や用排水路が整備された事により、農産物の品質向上や施設管理の軽減が図られ、農業所得が増加した。</p> <p>① 主要目標 中山間地域等の農村生活・生産機能の向上</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>指標</th> <th>着手時点数値等</th> <th>評価時点数値等</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>農業所得の増加額</td> <td>1,203千円/ha→設定せず</td> <td>1,346千円/ha</td> </tr> <tr> <td>農村公園受益者数</td> <td>673人/千m²→設定せず</td> <td>1,243人/千m²</td> </tr> <tr> <td>交流施設利用者数</td> <td>55人/日/施設→設定せず</td> <td>73人/日/施設</td> </tr> </tbody> </table> <p><input type="checkbox"/> 評価時点の数値に対する評価</p> <ul style="list-style-type: none"> 農業所得の増加額が、評価基準値1,203千円/haを上回っている。 農村公園受益者数が、評価基準値673人/千m²を上回っている。 交流施設の利用者数が、評価基準値55人/日/施設を上回っている。 <p>② 副次目標</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>指標</th> <th>着手時点数値等</th> <th>評価時点数値等</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>全幅員4.0m以上道路延長率</td> <td>79.5%→設定せず</td> <td>100.00%</td> </tr> <tr> <td>用排水能力向上率</td> <td>1.00→設定せず</td> <td>1.80</td> </tr> </tbody> </table> <p><input type="checkbox"/> 評価時点の数値に対する評価</p> <ul style="list-style-type: none"> 農道幅員4m以上の道路延長率0% (0.0km/4.0km)であったが、事業の完成により農道幅員4m以上道路延長率が100% (4.0km/4.0km)となった。 用排水路の整備により、用排水能力向上率が1.80となり、基準値1.00以上を満たしている。 <p>③ 副次効果</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>農地の保全</td> <td>降雨時による水路の溢水により、表土の流出が発生していたが、排水機能が改善された事や、鳥獣害防止施設の整備を12.4km行う事により農地71haが保全されている。</td> </tr> </tbody> </table> <p>④ その他の事業効果の発現状況 鳥獣害防止施設の設置により、民家近くに出没していた獣(シカ、イノシシ等)も姿を現さなくなり、安心できる生活環境が整えられた。</p>	指標	着手時点数値等	評価時点数値等	農業所得の増加額	1,203千円/ha→設定せず	1,346千円/ha	農村公園受益者数	673人/千m ² →設定せず	1,243人/千m ²	交流施設利用者数	55人/日/施設→設定せず	73人/日/施設	指標	着手時点数値等	評価時点数値等	全幅員4.0m以上道路延長率	79.5%→設定せず	100.00%	用排水能力向上率	1.00→設定せず	1.80	項目	内容	農地の保全	降雨時による水路の溢水により、表土の流出が発生していたが、排水機能が改善された事や、鳥獣害防止施設の整備を12.4km行う事により農地71haが保全されている。	<p>(2) 費用対効果分析の算定基礎となった要因等の変化 〈 <input checked="" type="radio"/> 有 〉</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>着手時点の計画</th> <th>事後評価時点の実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>総事業費</td> <td>1993百万円</td> <td>1425百万円</td> </tr> <tr> <td>工期</td> <td>H13~H17</td> <td>H13~H21</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">経済効率性</td> <td>費用</td> <td>756百万円</td> </tr> <tr> <td>便益</td> <td>888百万円</td> </tr> <tr> <td>B/C</td> <td>1.17</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>627百万円</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>760百万円</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>1.21</td> </tr> </tbody> </table> <p>※経済効果は、生産基盤整備を対象に算出している</p> <p>※平成18年度再評価地区 総事業費1,500百万円、工期H13~H20に見直し (要因変化の分析)</p> <ul style="list-style-type: none"> 総事業費：農道の整備延長、用地整備箇所の見直しによる事業費の減 費用：農道の整備延長の見直しによる事業費の減 便益：農道のコスト縮減による便益額の増 <p>(3) 事業実施による環境の変化 〈 <input checked="" type="radio"/> 有 〉</p> <p>① 自然環境への影響</p> <ul style="list-style-type: none"> 営農条件が改善されたことで耕作放棄地発生防止につながり地域の良好な農地景観が保たれている。 <p>② 生活・居住環境等への影響</p> <ul style="list-style-type: none"> 活性化施設が整備されたことにより、地域の高齢者等の活動機会が増えた。また、都市住民との交流機会も増え、地域に活力が出てきた。 <p>③ 環境保全対策の効果の発現状況(措置を講じた場合)</p> <ul style="list-style-type: none"> なし <p>(4) 社会経済情勢の変化が事業に及ぼした影響 〈 有・<input checked="" type="radio"/> 無 〉</p> <p>① 社会経済状況の変化</p> <ul style="list-style-type: none"> なし <p>② 関連計画・関連事業の状況の変化</p> <ul style="list-style-type: none"> なし <p>③ 事業環境等の変化</p> <ul style="list-style-type: none"> なし 	項目	着手時点の計画	事後評価時点の実績	総事業費	1993百万円	1425百万円	工期	H13~H17	H13~H21	経済効率性	費用	756百万円	便益	888百万円	B/C	1.17			627百万円			760百万円			1.21
指標	着手時点数値等	評価時点数値等																																																	
農業所得の増加額	1,203千円/ha→設定せず	1,346千円/ha																																																	
農村公園受益者数	673人/千m ² →設定せず	1,243人/千m ²																																																	
交流施設利用者数	55人/日/施設→設定せず	73人/日/施設																																																	
指標	着手時点数値等	評価時点数値等																																																	
全幅員4.0m以上道路延長率	79.5%→設定せず	100.00%																																																	
用排水能力向上率	1.00→設定せず	1.80																																																	
項目	内容																																																		
農地の保全	降雨時による水路の溢水により、表土の流出が発生していたが、排水機能が改善された事や、鳥獣害防止施設の整備を12.4km行う事により農地71haが保全されている。																																																		
項目	着手時点の計画	事後評価時点の実績																																																	
総事業費	1993百万円	1425百万円																																																	
工期	H13~H17	H13~H21																																																	
経済効率性	費用	756百万円																																																	
	便益	888百万円																																																	
	B/C	1.17																																																	
		627百万円																																																	
		760百万円																																																	
		1.21																																																	

評価シート（2）

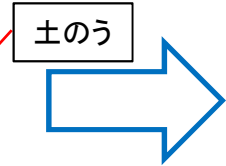
<p>(5) 今後の事後評価の必要性 〈 有 ・ <input checked="" type="radio"/> 無 〉</p>	<p>(7) 同種事業の計画・調査のあり方の見直しの必要性 〈 <input checked="" type="radio"/> 有 ・ 無 〉</p>
<p>(理由) <ul style="list-style-type: none"> ・ 今回の事後評価において、増加所得額等の十分な効果が発現されているため、今後の事後評価は必要ないと思われる。 <p>□「有」の場合の実施時期及び方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 時期： 年度 ・ 方法： </p>	<p>(理由) <ul style="list-style-type: none"> ・ なし <p>(具体的反映策) <ul style="list-style-type: none"> ・ なし </p> </p>
<p>(6) 本事業における改善措置の必要性 〈 有 ・ <input checked="" type="radio"/> 無 〉</p>	<p>(8) 事業評価手法の見直しの必要性 〈 有 ・ <input checked="" type="radio"/> 無 〉</p>
<p>(理由) <ul style="list-style-type: none"> ・ なし <p>(具体的反映策) <ul style="list-style-type: none"> ・ なし <p>(既の実施した改善策の内容と効果) <ul style="list-style-type: none"> ・ なし </p> </p></p>	<p>(理由) <ul style="list-style-type: none"> ・ なし <p>(具体的反映策) <ul style="list-style-type: none"> ・ なし </p> </p>
	<p>(9) その他特筆すべき事項 〈 有 ・ <input checked="" type="radio"/> 無 〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ なし

3. 添付資料シート(1)





①用排水路



着工前
未改修の土水路で少量の雨量でも溢水し、
土のうを設置し被害の軽減を図っていた。

完成後
水路を改修し、通水能力を向上させたため、
下流農地への用水供給が安定した。

②農道

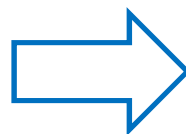


完成後
農道を整備し、大型トラクターや牛を運
ぶトラックも容易に通行可能となった。

③鳥獣害防止施設



着工前
牧草等がシカに踏み荒らされ、食べられてしまう
ため、農家の意欲が減退。



完成後
柵高H=2.3mの鳥獣害防止柵を設置し、
シカの侵入を防ぎ、被害の軽減を図った。

④活性化施設(精進活性化センター)



活性化施設の建設により、研修、展示、都市との交流等
に寄与している。

